



広報 えびな

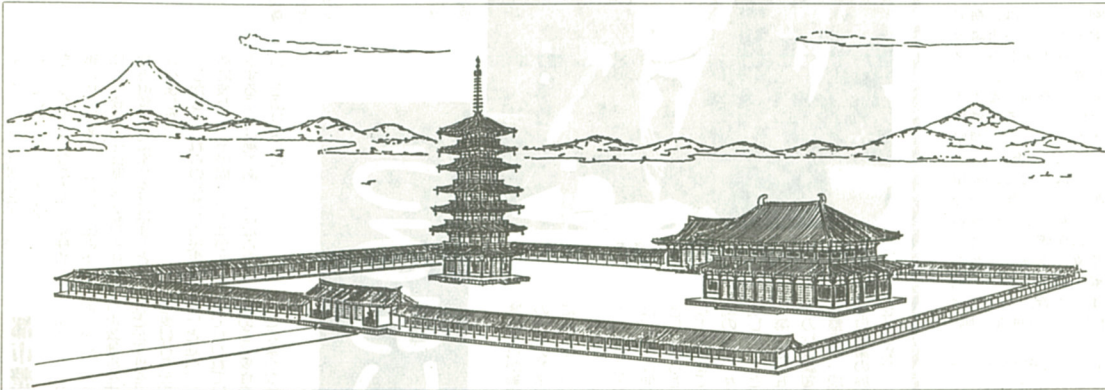
発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111 (代) /〒243-04

世帯と人口

昭和60年3月1日現在
世帯 28,196世帯 (+70)
人口 91,435人 (+242)
男 46,937人 女 44,498人

毎月1日・15日発行

いにしえのロマンを



相模国分寺復元模型(想定)の鳥瞰図
大岡實氏作

中に「七重の塔」と「金堂」。周りは回廊が囲っていますが、東側だけ(右)が築地(ついでにかわらぶきの扉)。南(手前)に中門、北(一部隠れている)には講堂が位置しています。

諸国の国分寺の伽藍(がらん)配置は東大寺式が多いのですが、相模国分寺は珍しく法隆寺式伽藍配置となっています。

相模国分寺を模型で復元

塔の高さは65メートル

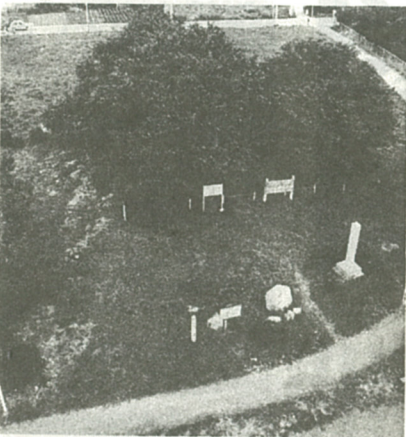
模型完成は来年3月までに

いにしえのロマンがたまたま相模国分寺を模型で復活。古建築の第一人者である大岡實氏(東京都新宿区在住、84歳)本誌一面で紹介に依頼していた「相模国分寺復元模型設計図」がこのほど完成しました。設計図は三十八枚からなり、これを基にして相模国分寺(想定されたもの)を復元することもできません。しかし、費用は膨大なものになるため、市教育委員会では、百分の一の模型をつくり、海老名市温故館で展示する計画をたてています。模型といってもかわからず柱まで本物そっくりの精巧なものをつくり、私たちの先祖が眺めたのと同じような気分が味わえます。模型完成は来年三月ごろに予定されています。

相模国分寺を復元しようという願いは、以前から私たち海老名市民の共通の願いでした。しかし、現実的には、数々の難問と膨大な費用がかかるため、実現不可能に近いものでした。それでは何分の一かの模型でもよいから制作して残そうという計画が立てられました。

幸い、古建築の第一人者である大岡實氏が、昭和四十、四十一年の相模国分寺の遺跡発掘調査団長を務められたこともあって、同氏に復元模型(想定)の設計を依頼しました。

完成した設計図は相模国分寺のうち、上図の通り中門から講堂にとりつく回廊とその内部の想定図で幅五十分の一から四十分の一まで、図面総数三十八枚、平面図、断面図、立面図、詳細図など七重の塔に関するもの十三枚、金堂に



将来は史跡公園に(七重の塔跡)

天竺十三年(七四二年)聖武天皇は、仏陀(だ)の伽藍で国家の安泰を祈り、同時に国民の幸福を求め、全国に皇女の勸修寺を建立する詔を出しました。相模国は、国の中央で、麻績地の海老名国分(のちの海老名)に皇女を遣わしました。当時の僧々には、その荘厳さへの世ながらの極楽浄土であったと推測されます。

文化財関係の模型を専門につくる業者に委託し、想定される相模国分寺の百分の一の模型を制作します。模型制作に当たっても大岡氏に指導をしていただき、本格的なものにします。模型は七重の塔の高さが六十五メートル、南北回廊が百六十メートル、東築地、西回廊が百二十三メートル、費用は千八百万円です。完成は来年三月頃になる予定です。相模国分寺跡の一角にある海老名市温故館に展示します。相模国分寺のかわらぶきがあり、それを手にとったり、模型を眺めたりした後、七重の塔跡地の礎石の上に立つて目をじれば、心は奈良時代へタイムスリップ(時代移動)するのでは……。

40・41年に発掘調査

相模国分寺の盛衰

知られていました。明治末期から大正にかけて海老名小學校から郷土史家でもあった故山中山吉氏と、県立高等女学校教師の故矢後野吉氏は共に国分寺の研究をされ、その成果もあって、相模国分寺跡は大正十年三月に史跡名勝天然記念物法による第一回の指定地となりました。

その後、昭和四十、四十一年に塔跡を中心に発掘調査が行われ、中門跡、回廊、築(ついでに)地、講堂が明らかになり、僧坊、北方建物の確認もされ、ほぼ全体を説明するところまで来ました。

市では、国・県の補助を得て、公有地化を進め、現在指定地約三万四千平方メートルの約三分の一に当たる約二万平方メートルが公有地となっています。今後地権者の協力を得ながら公有地化を進め、将来は、史跡の環境を損わないように配慮しながら史跡公園として整備していく計画を立てています。

フォトピックス



キノコが出てくるのが楽しみ

家庭でキノコ栽培

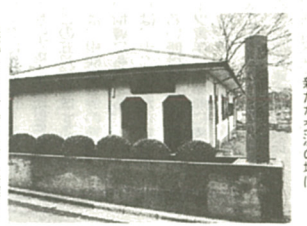
有馬PTA成人教育学級

家庭で手軽にキノコ栽培を。有馬PTAの成人教育学級(小松久子委員長)では、二月十九日に馬中で、同校の太木喬明校長(五七)を講師に迎えて、成人教育学級(ヒラタケ(シメジ)、ナメコ)を作ってみました。キノコを育てる楽しみを味わった。

住民の力で完成

柏ヶ谷自治会館落成

柏ヶ谷地区住民希望の自治会館(柏ヶ谷八五六一)が、このほど完成し、三月十日、地開業者百二十人を集めて落成式が行われた。同地区には住民の寄り合い場所として柏ヶ谷公民館があるが、老朽化のため不便が多く、以前から住民の間では新たな交流の場を望む声が強かった。そのため、柏ヶ谷自治会館(藤原松三会長)が建設を計画した。



新たな交流の場に

完成した自治会館は、建築面積百九十二平方メートルの広さをもち、木造耐火構造の平屋建て。舞台付大広間、料理実習室、収納室などがある。特に舞台付大広間は仕切りで区切ることで、舞台は会議室として、また大広間は集会所として使用できる。藤原会長は「地域住民の力で完成した自治会館。今後は地域文化の拠点として使っていただきたい」と語っていた。



国分寺史跡地をふれあいの場に

このコーナーは、本市の歴史や文化を伝えるために設けられています。今回は、国分寺史跡地についてご紹介します。この場所は、古くから重要な文化財として知られており、多くの観光客が訪れています。また、この場所は、市民の憩いの場としても活用されています。ぜひ、この機会に国分寺史跡地を訪れてください。

存在はなっていない。市も国分寺史跡地保存管理計画策定準備委員会をつくり、整備にのりだした。一回の委員会が開かれたが、具体策は一部も進んでいない。市が買収した土地は一部であり、私有地には建造物もあり、その上面や裏が保存の難をかせ、市の管理の届かない側面もあるが、放置しておいてよいものではない。関係者や市民の協力を求め、散逸した礎石を旧に復し、古の面影を偲ぶことにできる。古のロマンを求めて訪れる人々にたいして、できれば散策のための歩道をつくり、市の花・市の木などを植栽して、市民の憩いの場、人と人のふれあいの場にすれば、心と心の交流も、血のかよった地域社会も生まれるであろう。具体的な施策がほしい。

(国分・武藤文雄)

各種催しに参加を 中央公民館

市立中央公民館で次の講座・教室を開きます。申し込みは必ずしも往復ハガキで四月二十五日まで(公民館講座の申し込みは四月十日まで)。ハガキには住所、氏名、年齢、電話番号、受講希望講座名と科目名を記入。いずれも定員を超えた場合は抽選。結果はハガキで、問い合わせは同館(上掲四七六ノ二 ☎32・三三二)へ。電話でも可。

①公民館講座(二期) 下表の通り。教材費は自己負担。

②市民教養大学講座 我が家の家庭経済・健全な家計運営のために 五月九日・七月一日の間の毎週不曜日午前十時正。市立中央公民館。内容は英会話を通してアメリカの風俗・習慣や青年の考えを知る。講師はスーザン・ブルッキングス氏。対象は市内在住、在学、在勤三十人。名簿のついで、「幸福の黄色いハンカチ」

五月十一日(土) 昼の部は午後一時三十分五分、夜の部は午後六時半・八時五十分。市立中央公民館。幸福の黄色いハンカチと詩人とをテーマとする上映。人員は各回先着百人。申し込みは市立中央公民館(☎32・三三二)へ。電話でも可。

科目	内容	期間	曜日	回数	時間	会場	講師	定員
料理	お魚まるごとクッキング	5・17 6・28	金	7	10:00 13:00	中央公民館	市鮮魚商組合・他	32人
漢文学入門	中国の思想家と詩人たち	5・10 7・12	金	10	10:00 12:00	県立有馬高等学校	有馬高校教諭 鈴木 總一	30
郷土学	海老名市概況	4・17 6・5	水	8	10:00 12:00	中央公民館	海老名市長・他	40
星座への誘い	四季の星座と天体のしくみ	5・27 3月	月	10	10:00 11:30	中央公民館 教育センター	平塚市博物館学芸員 馬 宏道・他	40
日曜大工	初心者を対象 道具箱を作る	5・18 7・16	土	7	13:30 15:30	大谷中学校	大谷中学校教諭 郡司 浩一	20

明治末から大正の初めにかけて、いなかは俳句のことも発句(ほく)と呼び、俳句の会を運座といっていた。娯楽機関の少なかった時代の風潮で、多少でも又オのある青年以上上の男子は、何々吟社などという結社をつくり、輪番に自宅を会場にして、この運座を開いていた。主に農閑期の夜間を利用して催したが、近隣の交流の際には盛んに行われた。

各結社は恒例行事として毎年社寺への奉灯句を募集した。寒暑紗(しゃ)に書き集れた。寒暑紗(しゃ)に書き集れた。寒暑紗(しゃ)の前面に張り出すほか、入道句は別に扇面、聯(れん)柱や壁などに掛ける細長い書面の板(いた)に書いて置き(ます)・団(だん)に掲示してアピールした。地元の宗匠、桂洲庵竹洞先生と川島峰次氏は国分の薬師塚の緑日の奉灯によく面倒を見ておられた。

頭をひねる。そして投句用紙一枚に二句ずつ書いて何句でも投句した。透逸にはマッチ、小皿など、優秀三句は三光と大地人といい、これにはうきかきか、熊手、反物などが次々と読み上げられるときが、会のクライマックスであると。自分の句が発表されると興奮



運座

の二つ、ある時、雪が降り原田時社の主筆だからその原田の二字を句の頭が終わりにつけておこうと文が出た。これにはこんがらがった。田舎作の運座に行く雪の原田時社家の中山吾吉先生は積月と行し



の時はんが句が出た。と駄目というが、これは「まいづみ」の中の「字二」を中七の語として作られたものであった。松島十湖翁という宗匠の名の一字を讀み込み(こ)う約束だ。こ

の時はんが句が出た。と駄目というが、これは「まいづみ」の中の「字二」を中七の語として作られたものであった。松島十湖翁という宗匠の名の一字を讀み込み(こ)う約束だ。この時、おもしろい、繰返し席題出て二句も書きました。席題出て自由句作すのを平就といいますが、いろいろ制約を(せ)し(せ)ませる場合が多かった。冠音(かんごん)というのがある。また二字縛りという方法があった。松島十湖翁という宗匠の名の一字を讀み込み(こ)う約束だ。この時、おもしろい、繰返し席題出て二句も書きました。席題出て自由句作すのを平就といいますが、いろいろ制約を(せ)し(せ)ませる場合が多かった。冠音(かんごん)というのがある。また二字縛りという方法があった。松島十湖翁という宗匠の名の一字を讀み込み(こ)う約束だ。

(国分の池田武治さん寄稿)